

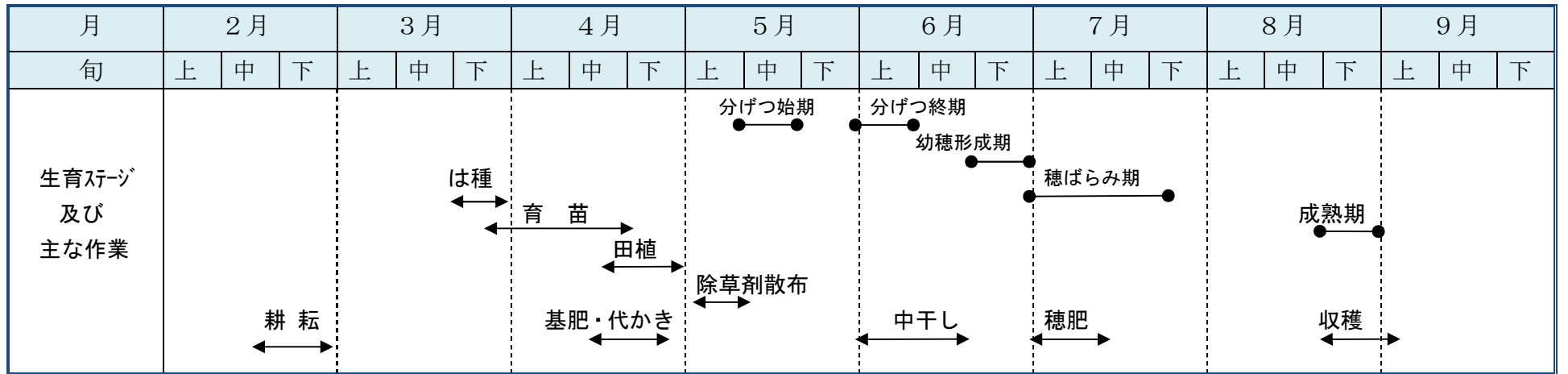
# 飼料用米「ちば28号」の多収栽培に向けた栽培暦

県では、水田のフル活用を図るため、飼料用米や米粉用米を転作の重点作物として推進しています。

平成26年度は、水田活用の直接支払交付金の交付単価が収量に応じて変動する「数量払い」が導入され、収量が増加するほど交付単価が増える仕組みとなります。

飼料用米「ちば28号」の取組では、以下の点に留意し、収量の増加による所得向上を目指しましょう。

- ① 粗玄米（ふるいを通さない状態）収量は10a当たり660kgを目標にしましょう
- ② 植え付けは4月いっぱいに行いましょう
- ③ 収量増加に向けて堆肥を有効活用し、コスト低減を図るため薬剤による本田の病害虫防除は最小限にとどめましょう



## 栽培のポイント

### ①生育の目安

- 粗玄米（ふるいを通さない状態）収量660kg/10aを得るためには、穂数は420～470本/m<sup>2</sup>、粒数は31,000～35,000粒/m<sup>2</sup>、稈長は80cm以下とする。

### ②種子の準備・育苗

- 箱当たり播種量は乾もみで150g程度とし、これより減らさない。
- 浸種水温を10℃以上とし、浸種期間は10～12日程度とする。
- 催芽はハト胸状態まで確実に実施する。
- 育苗培土の窒素量は、箱当たり1.2～1.5gとする。
- 種子消毒と床土消毒は、主食米栽培法に準じて行う。
- 10a当たり18箱の苗を用意する。

### ③基肥

- 基肥窒素量は、主食用米より1kg/10a多く施用するものとし、砂質土で6～7kg/10a、壤質土で5～6kg/10a、粘質土では4kg/10aとする。
- 施肥にあたっては、堆肥の活用を図る。（下欄参照）

### ④田植

- 移植時期は4月15日～30日とする。
- 植栽密度は60株/坪程度とし、これより疎植にしない。
- 植え付け本数は3～5本/株とする。

### ⑤雑草・病害虫の防除

- 雑草の防除は主食用米の栽培法に準じる。
- 本田の病害虫防除は、予察情報等を参考に発生状況を注視し、被害の拡大が予想される場合に行う。
- 農薬散布は、玄米で給餌する場合は主食用米に準ずるが、モミ米で給餌する場合は使用可能な農薬が限られるため、関係機関等に確認する。

### ⑥穂肥の施用時期と量

- 幼穂形成期の草丈が65cm以下の場合は、出穂前18日（幼穂長10mmが80%）に窒素を3kg/10a施用する。
- 幼穂形成期の葉色がSPAD値で38以下、カラースケールで4以下の場合は、穂肥の施用を3～4日早める。
- 幼穂形成期の草丈が65cmを超えるときは、倒伏防止のため穂肥の窒素量を半減させる。

### ⑦収穫・乾燥調製・出荷

- 刈り取りは出穂後37日以降とする。
- 実需者と協議の上、適正流通による出荷を徹底する。

注1)本資料は飼料用米を栽培するためのものであり、「主食用米」の栽培には適しません。

注2)「ちば28号」を飼料用米で生産する場合、「ふさこがね」とは呼びません。

## 平成26年度 水田活用の直接支払交付金における飼料用米の「数量払い」

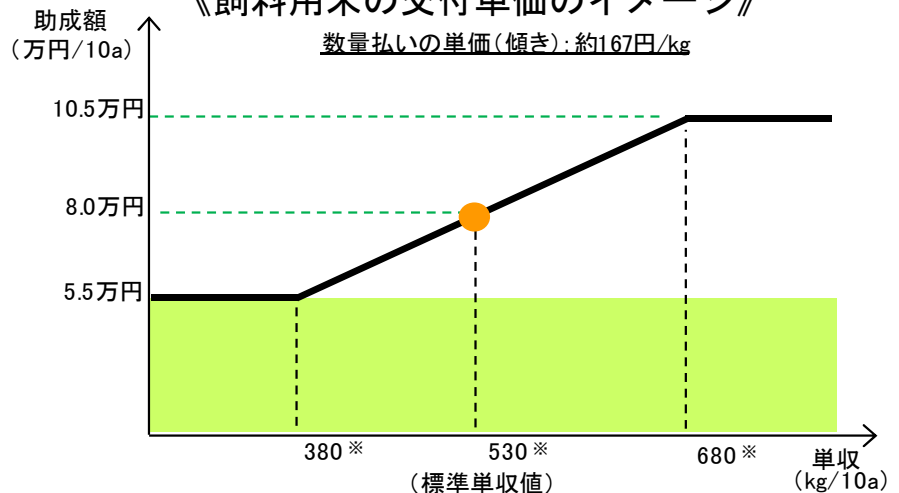
### 水田活用の直接支払交付金

水田で麦、大豆、飼料用米、米粉用米等の作物を生産する農業者に対して、交付金を直接交付することにより、水田のフル活用を推進し、食料自給率・自給力の向上を図ります。

### 《戦略作物助成の対象作物と交付単価》

対象作物	交付単価
麦、大豆、飼料作物	35,000円/10a
WCS用稲	80,000円/10a
加工用米	20,000円/10a
飼料用米、米粉用米	収量に応じて 55,000～105,000円/10a

### 《飼料用米の交付単価のイメージ》



※水田活用の直接支払交付金では、上記の戦略作物助成のほかに、二毛作助成、耕畜連携助成、産地交付金があります

・数量払いによる助成は、農産物検査機関による数量の確認を受けていることを条件とする  
・※は全国平均の平年単収(標準単収)に基づく数値であり、各地域への適用に当たっては、市町村等が当該地域に応じて定めている単収(配分単収)を適用する